

事業の総括

(1) R S P事業の実施に関する自己評価

福岡県では科学技術創造立県の形成、新技術・新産業の創出による産業の振興を重要な柱とし、21世紀型の産業構造を構築するため、アジアのシステムL S I設計開発拠点の構築を目指した「シリコンシーベルト福岡プロジェクト」、バイオ産業の集積拠点化を図る「福岡バイオバレープロジェクト」、今後の産業の共通基盤技術であるナノテクの推進を図る「ナノ福岡21プロジェクト」等を強力に推進している。これらの構想を推進するためには、大学等の高いポテンシャルを活用し、企業の製品開発・技術開発に結びつけることが重要であり、国等の制度も活用した産学官共同研究による大型研究開発プロジェクトの実施など活発な研究開発が必要である。

研究開発活動を行う上においては、地域の大学・公設試験研究機関・民間企業が相互に連携・交流を促進し、研究のシーズと産業界のニーズの的確なマッチングを図ることが重要である。このマッチングに重要な役割を果たすのが「研究開発コーディネート機能」であり、本機能の中心的な事業がR S P事業と位置づけ、本事業を実施してきた。

本県では、R S P事業（ネットワーク型）開始と相前後して、平成8年度に、県独自で「産学官連携カタライザー」制度を開始した。これは、R S P事業がシーズ発掘から共同研究・産業化に結びつけるトップダウン型コーディネートに対し、企業ニーズの発掘からシーズとのマッチングを進めるボトムアップ型の連携を行うものである。なお、産学官連携カタライザー制度は事業内容の見直しを図り、平成14年度から「マッチングコーディネート事業」として実施している。

本県における産学官連携コーディネート業務の中核的機関である（財）福岡県産業・科学技術振興財団（ふくおかI S T）では、R S P事業とマッチングコーディネート事業との密接な連携や育成試験後のフォローアップ活動を積極的に行うことで、有効かつ効率的なコーディネート活動を実施してきた。

後述するように、本県のR S P事業は多数の研究開発コーディネート実績を残すと共に、福岡県における「産学官連携コーディネート業務」の推進において、見本となる基盤となっており、多大なる貢献をしている。また、その成果の一つである国等の資金による大型研究開発プロジェクトの実施は、本県の科学技術振興の活性化に大きく寄与してきたと考えている。

(2) 目標の達成度

R S P事業における研究成果情報については、福岡県内を中心とした九州北部の各大学、県内の高専、福岡県工業技術センター等より効率的に収集を行ってきた。個別の研究者との連携体制もR S P事業（ネットワーク構築型）で形成したネットワーク、研究成果活用プラザ福岡との連携、県独自のマッチングコーディネート事業等を中心としたネットワークを活用し、緊密な連携を図っており、収集体制やネットワークは整備されたと言える。

科学技術コーディネータの評価能力自体も評価されており、福岡県工業技術センターの外部評価委員への委嘱や（独）科学技術振興機構（J S T）及び（財）全日本地域研究交流協会（J A R E C）が実施する技術移転に関する目利き研修（コーディネータ養成研修）の講師も務めるなど、R S P事業以外での活動の場も広がっており、より密接な連携体制が構築された。

研究成果の育成については、育成試験69件、他事業への展開を図ったもの52件（予算規模で延べ総額約40億円強の事業へ展開した）、実用化に至ったもの18件、起業化2件等、県内産業の振興などに大きく貢献したと考えている。

また、R S P事業で培った基盤を継承、発展させ、福岡県独自の事業として、次の事業を実施していくことが可能となった（産学官連携コーディネート事業であるマッチングコーディネート事業の実施、研究成果、研究人材データベースの整備、研究開発公募事業の案内・検索ホームページの開設）。

以上のことから、R S P事業の目標は十分達成されたと考えている。

(3) 地域におけるRSP事業の評価・波及効果

本事業は、九州大学総長を議長とし、産学官を代表する機関の役職員から構成される福岡県新産業・科学技術創造推進会議（成果育成活用促進会議）や、県内大学の地域共同研究センター長等を中心に構成される協議機関を中心に各大学との連携をとりながら進めてきたため、有望な研究成果情報のデータベースとして学界、産業界からの関心度も高い。

また、RSP事業育成試験についても、独立行政法人科学技術振興機構が実施する育成試験後のフォロー事業の豊富さ等から、各研究者においても研究開発の入り口事業として高く認知・評価されている。

これらの高い評価は、各科学技術コーディネータが専門領域毎に担当し、研究者との直接ヒアリングによる研究成果情報の収集や育成計画の立案等において、きめの細かい対応を行ってきたことも大きな要因であると考えている。

産業界からの評価についても、地域での産学官共同研究プロジェクトや大型研究開発プロジェクトを組織化し、県内産業の振興等に多大な貢献をしていることから、地域におけるRSP事業に対する評価は高いと考えている。

(4) 今後の方針

RSP事業終了後は、福岡県で形成された基盤を継承し、福岡県独自の制度である「マッチングコーディネート事業」を中心に、研究成果活用プラザ福岡の科学技術コーディネータ、福岡県工業技術センター、各大学の地域共同研究センターやTLO等との十分な連携をとり、産学官連携コーディネート活動を推進していく。

また、国等の資金による大型研究開発プロジェクトの実施、県が実施する研究開発支援資金の活用、企業ニーズにマッチした大学等の研究成果の実用化、「フクオカベンチャーマーケット事業」等の活用によるベンチャー企業育成システムの構築など、次世代の産学官連携コーディネート活動を実施していく。

これらの産学官連携コーディネート活動により生み出された研究課題や研究シーズ等については、ふくおかISTが実施するプロジェクト化研究会事業等を通じて、各種研究開発プロジェクトや実用化に向けた取り組みを行い、県政の最重要課題である「多様性と創造力に富んだ産業づくり」、「科学技術創造立県の形成」、「新技術・新産業の創出による産業の振興」へと展開していく。

さらに、研究開発プロジェクトへの展開、実用化を終着点とすることなく、研究開発プロジェクト終了後に生じた新たな研究課題への展開、研究開発プロジェクトを通じた新たな研究者ネットワークの構築、次代を担うコーディネータの育成等、縦方向のみならず、横方向への展開も視野に入れた産学官連携コーディネート活動を実施していくものである。

(5) RSP事業におけるコーディネート活動の実績（詳細は後述）

- ・大学等の研究成果情報の収集：244件
- ・育成試験：69件
- ・RSP事業の成果として、他事業への展開：52件、特許出願：19件、実用化事例：18件、起業化：2件。
- ・福岡県新産業・科学技術創造推進会議（成果育成活用促進会議）の開催：計11回。